慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ヴィヤンチャンに就て
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.18, No.1 (1939. 9) ,p.164- 164
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390900-0164

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ヴィヤンチャンに就て

朝日神風號の着陸で一躍我國に有名になつた佛領印度支那のヴィヤンチャンは此度の東日・大毎の世界一周機ニッポン號の着陸地ともなつてをる。此町は安南人の「萬象」と云つた國都である。マドロルによるこの町は一五三〇年にラオスの王宮所在地となり、次いで一五六五年に國都となり、その際 Viengchan の稱號を得たのであると云ふ（檀（サンタル）の都の意）。かくて從來の王都はムアン・ルアン・プラバンと呼ばれ、新しき王都はムアン・チャンと呼ばれることとなつた（ムアンは國の意）。漢字名「萬象」は後者の轉寫であらう。一八二七年シャム軍がこの國都を陷れ住民は四散した。次いでフランスの保護領となつた後此處にラオスの最高理事官が駐在することとなつたのである。「萬象」に關する安南文獻としては大南實錄正編列傳初集第八册に萬象傳がある（松本信廣）。